

窒息・誤飲（子ども）編

「喉にものが詰まる（窒息）」「誤って飲み込む（誤飲）」は、高齢者（65歳以上）と子ども（0歳から6歳）で多く発生しており、そのうち、子どもの「窒息・誤飲」事故は、約3割となっています。

加古川市消防本部管内で実際にあった事故です↓↓↓

- ・プラスチック玉を飲み込んだ。（3歳男児）
- ・処方薬（鼻炎薬）を飲み込んだ。（1歳男児）
- ・おもちゃの中にあるボタン電池を飲み込んだ。（1歳男児）
- ・一円玉を飲み込んだ。（5歳男児）
- ・あめ玉を飲み込んだ。（3歳女児）
- ・食事中、ウィンナーを喉に詰めた。（1歳男児）
- ・たばこをかじって飲み込んだ。（10か月女児）



予防のポイント

★整理整頓！

- 小さなおもちゃ、ボタン電池などは、手の届く所には置かない。
- たばこや灰皿を置きっぱなしにしない。
- 薬や化粧品は引出や戸棚に入れる。

★食事の際は注意しよう！

- 小さく切って、食べやすいようにする。
- ピーナッツやアーモンドなどの豆類を与える時は特に注意！

★周囲の大人が注意しよう！

- 就寝中の窒息事故も発生しています。子どもの就寝中は、うつぶせ寝に注意するのはもちろん、布団やシートが口元にかからないよう十分注意して下さい。



「喉に詰めた」場合は、窒息により息ができなくなり、重大な事故につながります。緊急の場合に備えて、**応急手当**を身につけましょう。